

JUNBA 2016 in Japan 「10年を振り返る」 パネルセッション概要

JUNBA2016は、JUNBAの10年の歴史を総括するとともにJUNBAの活動を紹介し、日本の大学のグローバル活動に資することを目的としています。午前は基調講演、午後は国際部門実務担当者を主な対象としたパネルセッションを行います。

パネルセッションでは米国拠点を持つ日本の大学の代表であるJUNBA理事がパネリストとして登壇し、参加者との質疑応答も交えて、以下の2テーマにつき理解を深める場とします。

1) パネルセッション1『米国における学生研修の実情と課題』

「一般語学研修」と「特色ある研修」をトピックスとし、JUNBA正会員大学が実施する研修の基礎情報を参加者と共有しつつ、研修実施における課題および解決策について議論します。これにより参加各大学国際部門担当者の知見を深めることを目的としています。

前半の「一般語学研修」では、研修運営体制、事前事後研修の在り方、海外拠点による支援体制等、情報を整理して共有します。予算策定プロセスやプログラムの評価方法についても、事例を元に議論を深めます。

後半の「特色ある研修」では、各大学が養成しようとするグローバル人材像や、各大学の特色ある研修についての情報を提供します。

2) パネルセッション2『米国内大学拠点の設置に関する実情と課題』

「海外事務所の設置理由・設置地域」、「現地事務所の設立・運営」、「運営に係る具体的な課題」をトピックスとして議論します。パネリスト大学の米国拠点が個別に蓄積してきた経験・ノウハウをベースに、拠点運営に係る課題やその解決策について意見交換し、本シンポジウムに参加する大学の海外進出などの国際化の一助とすることを目的としています。

「海外事務所の設置理由・設置地域」では、設置地域における米国大学・産業リソースやネットワークの有無、政府機関等地元公的団体からの支援状況等、各拠点の現状を共有します。

「現地事務所の設立・運営」では、大学での所属や予算規模等の具体例を紹介します。

「運営に係る具体的な課題」では、職員派遣の際のビザ手配、現地職員採用の手続き、現地事務所における会計業務・税務業務等のノウハウを共有し、過去に直面した課題やその解決方法を紹介します。

パネリスト(予定)

松尾 正人	九州大学カリフォルニアオフィス 代表
樺澤 哲	大阪大学北米センター センター長
神山 知久	名古屋大学テクノロジー・パートナーシップ 所長
千綿 文	福岡工業大学カリフォルニア事務所 所長
堂本 マリア	桜美林学園アメリカ財団 エグゼクティブ・ディレクター
服部 令	早稲田大学サンフランシスコオフィス 所長
山崎 淳子	龍谷大学バークレーセンターRUBeC 代表
米田 達郎	福岡工業大学 理事長補佐／カリフォルニア州立大学 教授